



循環器科 連載
(全3回)

循環器科部長

西堀 祥晴

にしほり よしはる

(日本心血管インターベンション学会指導医)



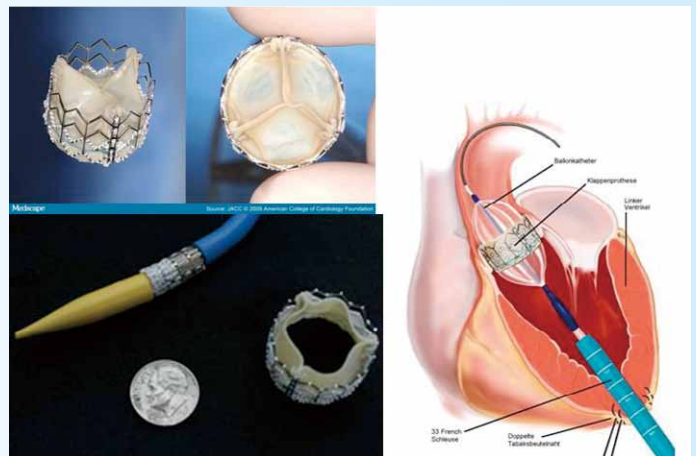
第1回 『カテーテルで心臓弁膜症を治す：TAVI』

今回は、最新のカテーテル治療のお話をさせていただきます。心臓に対するカテーテル治療と言えば、通常は冠動脈疾患に対する「風船やステント治療」を指しますが、冠動脈疾患以外にもカテーテル治療は行われています。有名なところでは、僧帽弁狭窄症に対する「経皮的僧帽弁交連切開術：PTMC」があり、最近では心房中隔欠損症に対するカテーテル治療（カテーテルを用いて、心房中隔の欠損孔に閉塞栓を留置する）も行われるようになりました。

今回お話しする「TAVI」とは、「経カテーテル大動脈弁置換術」の略で、大動脈弁狭窄症に対するカテーテルを用いた大動脈弁置換手術のことです。人口の高齢化に伴い、加齢による硬化性の大動脈弁狭窄症の頻度は増加しつつあります。大動脈弁狭窄症は進行性の疾患で、症状を呈するようになってからは、その予後は不良です。しかし、脳梗塞や肺気腫などを合併したリスクの高い症例は、開胸手術の適応とならず、亡くなるまで薬物療法で経過を追うしか手段がなかったのが事実です。TAVIは、開胸の必要がなく、大腿動脈からカテーテルを挿入して行います。また閉塞性動脈硬化症などのため大腿動脈からアプローチできない患者さんに対しては、胸部を小切開し、心尖部アプローチにて施術することもできます。

TAVIは、ヨーロッパにおいて2003年より治験が開始され、2007年にCEマークを取得しました。本邦では2010年4月から高度医療として承認され、現在、阪大病院、倉敷中央病院、榊原記念病院の3施設で治験が行われています。TAVIは、決して従来の開胸による大動脈弁置換術に代わる治療法ではなく、従来の弁置換術が困難な症例のみを対象としております。その目的は、生命予後の改善というよりも、症状の緩和（QOLの改善）であり、長期的な安全性についてはまだ確立されていません。またTAVIの治療成績は報告によって異なりますが、重症患者を対象としているため、従来の大動脈弁置換術には及びません。現在、本邦では治験が進行中ですが、この治験が終了した後、保険承認されるまでの間、500-600万円という高額なこの治療を受けて下さる患者さんが現れるのか、またその間もTAVI治療チームやその技術を維持できるのかなど、懸念材料は多々あります。しかし、今までただ見守るしかなかった重症大動脈弁狭窄症の患者さんには朗報であることは確かなようです。当院では私が日本心血管インターベンション学会指導医の認定を受けておりますので、将来的には当院でもTAVIを提供していきたいと考えております。

現在、治験中のエドワーズ・サピエン（TAVI）



形成外科 岩谷 博篤 赴任のご挨拶

当院形成外科の開設から長らくお世話になりました小熊孝が高砂市民病院に転任し、後任と致しまして岩谷 博篤（いわたに ひろあつ）が赴任致しました。前任者同様、格別のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

氏

名：岩谷 博篤

いわたに ひろあつ

専門分野・得意分野：形成外科一般、顔面・四肢外傷

趣

味：スポーツ、ドライブ

一

言：地域の先生方に信頼して頂けるよう、誠心誠意診療にあたって参りますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



● スポーツ外来のご案内

ようやく猛暑も過ぎ去り、「スポーツの秋」がやって参りました。秋の到来とともに多くのスポーツで多くの大会が開催されます。それにともないトレーニングやゲームなどで怪我也起こりやすくなっております。大会を優先するあまり「だましだまし」プレーを続ける選手もたくさんいますが、アスリートにとって怪我を長引かせることはパフォーマンスの低下だけでなく、選手生命を脅かすような事故に繋がることもあります。しばらく練習を休んでも痛みがひかない、診療を続けても思う様な効果がでないといった患者様には当院のスポーツ外来（第1・3・5土曜の午前）をお勧めください。専門医（戸祭整形外科部長）がその患者様の状況に応じた治療やアドバイスをさせていただきます。ご予約は地域医療連携室まで電話またはFAXにてお申し込み下さい。

※ 戸祭正喜：元ガンバ大阪チームドクター、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本体育協会公認スポーツドクターなど。この度、戸祭部長が委員を勤める日本小児整形外科学会スポーツ委員会より小冊子「成長期のスポーツ障害」が発刊されました。



● 乳腺外来のご案内

今年もピンクリボン推進月間である10月にあわせ、東京、神戸、仙台で数々のイベントがおこなわれています。ピンクリボンをご存知かと思われませんが、乳がんの早期発見、早期診断、早期治療の大切さを知ってもらおうという世界的な活動です。

ピンクリボン推進月間にあわせて患者様の乳癌への意識も高まって参ります。そのような患者様には当院の乳腺外来（毎週月曜・水曜の13:30～14:30）をお勧め下さい。日本乳癌学会認定医（木許外科部長）が中心となり、女性の技師、女性の看護師が対応させていただきますので、患者様には安心して受診して頂けます。

ご予約は地域医療連携室まで電話またはFAXにてお申し込み下さい。

専門特殊外来担当医表

診療科		月	火	水	木	金	土 (第2・4は 休診)	
内科	午前	【糖尿病外来】 市原 紀久雄	【糖尿病外来】 大塚 章人	【脳神経外来】 篠山 隆司	【糖尿病外来】 大塚 章人	【消化器腫瘍外来】 向原 徹
	午後	【呼吸器外来】 石川 結美子	【腎外来】 粕本 博臣	【呼吸器外来】 富田 菜々子	【禁煙外来】 中村 (1・3・5) / 久保 (2・4)	【血液外来】 飯田 正人	
循環器科	午後	【ペースメーカー外来】 (第1、第3 水曜のみ)	
外科	午後	【乳腺外来】 要予約 13:30～ 14:30	【肛門外来】 要予約 14:00～	【乳腺外来】 要予約 13:30～ 14:30	【ストマ外来】 14:00～	
整形外科	午前	【スポーツ外来】 戸祭 正喜	
耳鼻咽喉科	午後	【補聴器外来】 第1,第3,第5	

注) 学会など諸事情により代診、休診になる場合もあります。あらかじめご了承ください。

ご予約は地域医療連携室まで電話またはFAXにてお申し込み下さい。

● 地域医療連携室 電話 078-511-3133 / FAX 078-511-3297